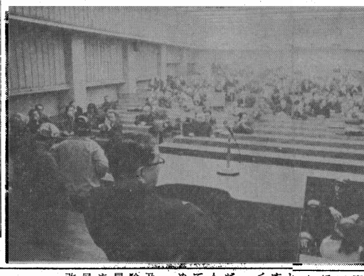
創刊大正11年
明治大學新聞
週刊
毎週木曜発行
定価20円
©明治大学新聞学会1971
購読料　一年分（送料共）一五〇〇円　二年分（送料共）二五〇〇円
発行所　明治大学新聞学会　東京都千代田区神田駿河台（明大内）
再刊 第四号

笠原学生部長 1月 全学説明集会開催を確約

23日 連合教授会に介入
受験料値上げ粉砕への突破口

◇この間、当局の「学費値上げ策動――受験料値上げ」に対する、学生会・学苑会両中執による再三再四の「団交」要請◇にも関わらず、当局は「既定方針通り団交は行なわない」の一片の紙切れをもって黙殺してきた。そして、あくまでも◇受験料値上げを「学費ではない」として手数料として押しきろうとしている。こうした当局の攻撃に決起した学友三十◇数名は、二十三日二時頃、それより一時間前から九一番教室で行なわれていた連合教授会に実力介入した。「即時団交要◇請」にも関わらず議長（春日井薫総長）は「閉会を宣言」。約二〇〇名の教員はそそくさと席を立ち逃亡した。だが笠◇原学生部長を二時間余に渡って追及。受験料値上げなどの全学説明集会を、一月十四日迄に行なう確約をかち取った。◇



二十三日午後二時頃、黒ヘル・青ヘルの約三〇名の学友が、「受験料値上げ、二部改廃」などに関する問題をめぐり、団交を要求して連合教授会に実力で介入した。

部隊が本館前まで来ると、学生課職員が鉄格子越しに〈のぞき見〉して、一人が会場の九一番教室の方向に〈御注進〉に駆けてゆく。会場前に部隊が到着する頃には、職員があわただしくドアの閉鎖につとめている。シュプレヒコールを叫んでいる間にも職員が続々駆けつけ、部隊が会場に入ろうとするや否や、両脇にあった机を押しドアの前に立ちはだかり、もみ合いとなった。しかし数瞬ののち部隊は会場へ突入。演壇の前に全員が座り込み、一人がアジテーションを始めた。約二〇〇名にのぼる教員は表面的には静かに見守っている。

アジテーションを終え、学友は学長・学部長などの登壇を要請、しばらくの静寂の後、宮崎繁樹教授（法学部）が立ちあがり、「本日の連合教授会は議題が決まっておりまして……」「ナンセンス」「静かにしろ」「議長の責任で決めて貰いたいと思います」「ナンセンス」宮崎教授の発言は学友の激しい反発をかった。

しばらく数人の教員と学友のやりとりが続いた後、二時二〇分頃一言も発さずぶ然として議長席に座っていた春日井薫総長が、突然マイクを手にして「本日の連合教授会は……」それを機に、「閉会された」として参加教員が続々退場しはじめた。これを阻止しようとする学友としばらくもみ合いが続く。

結局、笠原学生部長をとどめただけで、その他主体的に残った数人の教員を「オブザーバー」として笠原学生部長への追及団交が始められた。

受験料値上げに対する学友の追及に対して、笠原学生部長は「受験料は手数料であって、物価の上昇によって止むをえない」とお定まりの回答。また、八日の学生部委員会に提出された、「学費値上げ改訂案」について明らかにしなかったことの追及に、「決定した訳ではないから明らかにする必要はない」と居直り、それでいながら学生部の当局と学生のパイプ役について糾弾されるや、「学生部は民主的にやってきた」と主観的願望を述べることによって切り抜けようとした。

しかし、笠原学生部長が「学費改訂」した場合、学生への説明集会を開く」旨の確約を学苑会中執と行なったことをもとに、「受験料値上げ」に対する説明集会を要求した。笠原教授は「必要ない」との態度を取りつつも、その「学費改訂」の場合と「受験料値上げ」の場合との差違を「社会通念」で乗り切ろうとした。だが、前回の四十二年度学費値上げの際に、一年前から当局が本紙紙上などでその経過を公表してきた事実をもって、今回は「決定されていないので」として一切を秘密裡にすすめてきた当局の姿勢を批判、笠原学生部長の「社会通念」のあいまい性、矛盾を暴露していった。

ここにいたって、笠原学生部長はついに自らの論理の破綻を前にして「全学説明集会」開催の必要性を納得。一月十四日までに「全学説明集会」を行なうことを確約した。

確約は次の通り。

確約書

一、授業料値上げについて。
一、受験料の現実的値上げについて。
一、二部統廃合について。

以上三点を中心とした、総長・学長・理事長以下全理事、大学改革委員会メンバー、二部制度審議会メンバーの出席のもとに、対明大全学生への説明会を一月十四日迄に行なうよう努力する。尚、出席不可能であった場合には、最底私が責任をもって出席し、その経過（出席不可能の理由）と前記三点についての見解を全て公表致します。

但し、説明会のもち方に関しては、学生会・学苑会両中執との予備接渉を行い、前記説明集会の諸条件を決定し、その後説明集会を完全履行することをここに確約します。

学生会中執殿
学苑会中執殿
昭和四十六年十二月二十三日
明治大学学生部長
笠原長寿　印

一月へ向け戦線構築を
手数料の論理は権力の論理

当局の「受験料値上げ」が明確に学費値上げ策動の布石であり、また、当局がどのように弁明しようが、「受験料値上げ」は「学費値上げ」の一環、一端である。決って「手数料だから」として片づけられる問題ではあり得ない。

「手数料の論理」は、「権力の論理」に他ならない。

しかし、今回の当局の「学費改訂を見送る」旨を公表しつつ、受験料の「値上げ」を行なった攻撃の巧妙さは、始めから計算されたかのようにまったく効をそうしたものであった。

学生会学生大会のスト権は宙に浮き、学苑会学生大会は意気消沈した。学苑会学生大会は当局の発表の昨日・今日とあって、新たな攻撃に明確なる方針が提起しきれなかった。

だが、十七日の和泉における土屋副学生部長団交には四〇〇名近い学友を結集してかち取られた。しかしながら、焦点がボケてしまったせいか、二十二日の抗議集会は閑散としたものとなった。本校においても、二十日の全学総決起集会は十一日の三〇〇名に比して五〇名程度となり、学生大衆の「学費値上げ反対」の広範な決起は分散化した。闘う戦線すら、迅速に的確に対応しきれなかった。

当局の「学費値上げ策動――受験料値上げ」攻撃に対する、こうした学生側の否定的状況は存在しつつも、連合教授会実力介入団交、そこにおける一月説明集会確約の獲得は、この否定的状況を突破するものとしてあった。

現在の明治における運動が、いまだに学生大衆の自然発生性に依拠しなければならない状況は、今回のように、当局がその攻撃を政治焦点化せしめない近代化攻撃としてくる時、戦線の脆弱性を顕わにする。

当局の「受験料値上げ」攻撃は逆に言えば、より闘う戦線が即時的反発――自然発生性によらず、本質性、〈質〉をもったものとして、学生大衆に肉迫し、決起させ得るか、その〈質〉を獲得できるかの媒介物、試練としてあるのだ。

今こそ自立的な、永続的な、徹底した大衆運動が問われている時はない。

された秘密裡の学費値上げ策動の進行は来年度も必ずやわれわれにかけられてくるだろう。このことを実体的に粉砕する闘いはクラス・サークル末端からのわれわれの日常に根ざした闘いの展開がなされていくときに、われわれは新たな〈自らの生〉と〈闘いの行方〉を遠く視ることができるであろう。

二部 合同討論集会 開かる
さらに恒常的な討論を

二十一日午後七時より、五号館地下一階で学苑会主催による「全二部合同クラス討論会」が開催された。

この討論集会は、学苑会臨時学生大会で、代議員から「クラス末端への中執の活動の不充分さ」の批判と「合同討論会」要求に応えるものとしてあった。

情宣不足と冬休み前とあって、五〇名に満たない結集状況ではあったが、学生大会より以上に討論が深化され、多くの学友にとっては「遠い存在であった」中執との身近な討論で、素朴な質問を投げかけていた。

「学費値上げ策動」は広範なクラス討論の渦をまき起こしつつも「授業料値上げ見送り」の新たな攻撃によって、一定程度クラスは動揺をきたしたことがうかがえた。

しかし、当初からクラスの自立した単独団交要求などの独自の運動を展開してきたことによって、そうした当局の分断攻撃にも動ぜず恒常的に運動を自己存在を問う中から展開しているクラスも見受けられた。

中執との討論の中では、「受験料値上げ阻止」の闘いを確認しつつも、その止揚の方向性として政治課題の問題では対立。というよりも、この問、問題となってきている学園闘争と沖縄・三里塚などの政治課題との関連性において、明らかな〈共有〉をかち取れなかった。

今後「受験料値上げ」阻止闘争を闘うにあたって、当然にも、68・69年の全共闘運動の崩壊の総括が迫られようし、学園闘争――政治闘争を安易に一元化することなく、同時に反発、対立させることもなく、相互性・連関性の討論の深化が、今後の問題点としてあるだろう。

この集会を機に、さらに合同クラス討論集会を恒常化、徹底化していく必要があるだろう。

理事室を抗議占拠
和泉 当局の団交拒否、確約破棄を弾劾

本紙既報の学生会中執の「学費値上げ」など五項目にわたり①理事長――常勤理事②学長③連合教授会の代表として各学部長④対策委員会の代表⑤二部改廃問題を検討している責任者⑥学生部長、和泉担当副学生部長を対象とする団交を十五日要請。

だが、この団体交渉も、学生大会の決議にもとづいた要請にもかかわらず十六日、大学当局は「規定の方針により……」といった珍腐な一片の紙切れで学生の正当な要求を拒否してきた。しかしながら十七日中執を中心に数名の学友を代表にして、学生部へ直談。こうした学内の運動の盛上りに恐怖した当局は、ようやく土屋副学生部長（和泉担当）の団交出席を確約した。

以上のような経過の後に団交は六番教室において二時頃より始った。当初六番教室での団交を拒否し続けた土屋副学生部長も四〇七番教室を埋めつくす学友三百余名の圧倒的追求の前に六番教室に行くことを余儀なくされていった。またその最中に彼がもらした「中教審には興味がないから……」といった暴言を眼の当りに視てしまった学友の激怒は二重、三重にもなって六番教室を人波で埋めつくしていった。

突如とした「授業料見送り―受験料値上げ決定」というこそくな学費値上げ策動は秘密裡に一切の説明の機会も踏みにじり強権的に行使されている。

学友の、当局と学生のパイプ役である学生部は当然説明をすべきであるという論理に土屋副学生部長は自らの欺瞞―居直りで対応。一切説明すらすることなく、無益な時が過ぎた。いっこうに進展しない団交は二十一日一時に、再度土屋副学生部長を含めた責任ある大学当局の人間との団交を設定することの確約で、この日の団交を終えた。

二一日、確約した団交を破棄、仮病で逃亡を決め込んだ土屋副学生部長。当然のことのように大学当局は一切の口を閉ざしたまま。同日正午過ぎより「団交破棄」弾劾・抗議の総決起集会が和泉中庭で開かれた。結集した約五〇名の学友は、当局に対し抗議のデモンストレーションを展開。学生課、続いて教員室前でシュプレヒコールを叫び、さらに学友は学部長室を占拠、すぐさま当局を糾弾する抗議集会をその場で開いていった。ベ平連、入管闘、法自などの発言が述べられて行く。その一方では教職員室に設置される放送装置を駆使して全学にその深い怒りと抗議の叫びを流していった。続々つめ寄る学友と共に糾弾集会は続行されていく。「十七日団交はアリバイ的な団交ポーズに過ぎず、本日の当局の対応こそ、それを暴露するものだ。受験料値上げ策動こそ、学費に向けた布石である。」などのアピールは圧倒的な支持をかち取っていった。約一時間にわたる理事室占拠―抗議集会貫徹をもって再度学内デモンストレーションに移っていった。

今回の団交の過程でも明らかに

保安処分 高杉氏が講演
「地域管理網」―治安の強化に

二十二日「保安処分粉砕講演集会」が明大弾圧対策委員会・二部救対会議の共催により、午後六時半から本校五号館五〇二番教室で開催された。講師には高杉晋吾氏を招き、一時間半にわたって講演、その後、参加者と共に十時頃まで白熱した討論を展開した。

八〇余名の学友を前に、本集会を主催する学友から発言があり、「刑法改悪―保安処分攻撃の意図またその中で何を問題として行かねばならないのか、といった認識運動にとどまることなく現実の実践―保安処分体制粉砕に向けた闘いと、いかに結合させるのかを基軸にしつつ本集会を進めて行きたい」とアッピール。続いて講演が始った。

まず現代資本社会での国家権力の延命は効率的生産性向上にかかっていようし、それには労働力の大量増産が迫られる。われわれはそこに労働力にはそぐわない人間を切り捨てて行く策動を見ることが出来る。精神衛生法二十九条の乱用といった権力の先取り的な施行は、マスコミの「精薄者家庭の悲劇」などといった福祉・医療施設拡充に向けた一連のキャンペーン、精薄青年が当時のライシャワー大使に暴行するといったことを契機とした刑法改悪案化、などによる大衆のイデオロギー操作を見る時、すでに相当進行してることがうなづける。「保安処分」立法化とは、権力が「危険な精神病質者の犯罪から社会を守る」という一見異論なさそうな装いで一層の人民抑圧と生存権のハク奪を図るものに他ならない。すなわち、権力が現代管理社会の矛盾を、国家統制の強化と刑事特別法=保安処分との結合で乗り切ろうとしていることを高杉氏は指摘していった。

先に述べた福祉・医療施設整備キャンペーンは「地域管理網」の確立、すなわち警察―保健所―精神病院を軸にした地域末端におよぶ治安の強化の中で出されていった。

このように、現代管理社会における選別構造（エリート・管理層―中間労働者層―棄民層）は、市民社会の日常性の中で形づくられている。こうした情況で、東拘で看守の暴行により記憶喪失になった一反戦労働者が鑑定留置となり精神病院に強制収容されたことが語られた。

刑法改悪の一連の動きを捉えるなら、その時々の情況と一切きり離され、立法化されるものではないこと。それゆえ、われわれの意識構造が鋭く問われてることが、繰り返し訴えられていった。

教職闘争
三木教授 菅原講師 討論集会を開催
野辺教授などは拒否

十二月二十日、三時より五三一番教室において、明大教職連絡会議主催の対教職課程専任教師との討論集会が開催された。

この日の主要な議題は、前号（再刊第三号）「教職闘争報告レポート」にも明記されている様に、学生側の教育原理（三木教授担当）における単位認定権粉砕――一律評価要求の動きに対して、教職担当教授や文学部長等から隠けんな形で恫喝がかかって来ているという事実の具体化とそれの的確な把握にあった。しかし、当日の出席者は三木文学部教授と菅原文学部専任講師の二人だけだったため最初予定していた「事実経過」の把握といった問題の核心にふれることは出来なかった。

教職連絡会議は、この討論集会の設定に当り、十四日の段階においては三木教授を通して教職課程専任の教師（現在は五名）と文学部長を呼んで集会を持つように交渉していたが、十五日に至っては教師全員の「合意」により討論集会には出席できない旨を伝えて来たので、個別に参加を呼びかける折衝を開始した。

このことによって、三木教授と菅原講師は、この間の「事実経過」を明らかにする責任性のもとに自主的に討論に参加することとなったが、現在教職課程の主任でもあり、また「事実経過」解明の鍵を握っていると考えられる野辺教授は、教職連絡会議の数度の折衝の後にも「大勢で話し会っても生産的なものを産み出すことはできない」旨を唯一の理由としてこれを拒否して来た。

結局は二名の教師と、五三一番教室に結集した三〇名余りの学生で討論集会が貫徹された。そこでは主要に単位認定権の持つ様々な問題、それと絡み合わせたところの現在「国語科教育法」（菅原講師担当）で闘かわれている「単位認定権粉砕―授業延長=自主講座貫徹」の問題などが討論され、穏やかなムードのうちにも、自己の生き方の問題なども一面のぞかせるような真摯な議事運びとなった。

この討論集会は多くの未解決部分を残しながら教師側の都合により六時すぎに終了した。だが、教職連絡会議では、これからも「事実経過」の追求と明治における教職課程の在りようとを、教育そのものの徹底追求を媒介として断固行なっていくことを最後に確認した。

20日 授験料値上げ、二部 改廃阻止を意志一致
―全学総決起集会―

二十日、本校学館解放広場=中庭において「全学総決起集会」が開催された。

この集会は、学費全面値上げ見送りと同時に決定された受験料六〇%値上げおよび二部統廃合実力阻止に向けて設定されたもの。十四日付「学費全面値上げ見送り発表」以後、学内において、学費闘争に関する明確な方針は出しきれなかった。また、二部統廃合問題に関しても、一部の不充分性を踏まえての、今後の方針を全学的に確認するものとしてあった。

本集会は、そういった今までの不充分性を補い、さらには、受験料値上げ実力阻止の強固な意志一致をからませたものとして位置付けられるであろう。

だが、「学費全面値上げ見送り発表」のためか、あるいは帰郷した学友が多いのか、参加者の数は少ない。しかし、そういったなかにあっても、「今回の受験料値上げは来年度学費全面値上げ発表の重要な布石」、「学費値上げ攻撃が社会再編に応じた教育の帝国主義的再編の個別明大における具体化であり、こうした段階的値上げこそ、より当局の近代近攻撃としてかけられてきている」などの「受験料値上げ阻止」の意志一致はかちとられていった。

そして最後に「日々の授業のなかに貫徹されている明大近代化路線=中教審路線に対してクラス末端からの闘いが要請されているし、そのためにも翌日（二一日）予定されているところの全二部クラス討論集会が重要なカナメとなる」との学苑会中執らの発言が確認され、集会を終え、デモ行進に移っていった。

十四日以降、学内の戦列は急激な変化を示してきた。だが、問題の一切は解決されていない。たんに個別学費のみを問題として闘うのではなく、われわれは、大学における教育矛盾そのものの本質をつき破る闘いとして、再度学費闘争を視つめなおさねばならない。

この日の集会は、当局の分断攻撃に明確に対決するものとして、確認されていったことによって、二十三日の連合教授会実力介入団交の勝利を導くものとなった。

寸描

▼「明治大学新聞」は再刊第三号をもっ…幸か不幸か週刊体制…完全に（とは言っ…最底限の保障で）復…した。「新聞づくり…しんどいぜ」と言った大阪工大…新の諸君の言葉を、はや再刊第…号にして、「きよしこの夜」を…きながら再度かみしめる。と同…に、より以上に、われわれの一…有余の闘いが、週刊体制の"ノ…マ"を〈課せられる〉（?）こ…によって全てがスポイルされて…まうようなんともウスラ寒さを…感じさせる。「こんなはずでは…かったのに」と悔いる日の近い…とを予感してしまうそのこと…われわれの闘いの〈質〉その…をも表わしてしまっているの…ろうか。▼「日大学生新聞」の…君が、〈伝統と栄光〉の「日本…学新聞」の歴史に決別を告げ…大学生新聞」を創出したその時…した学新活動に陥ったら、再び…われわれがもし闘争意識から離…らの手で"廃刊号"を出すこと…明らかにしたい。」（第一号）…断言したそのことを、現在の…的窮乏状況（そればかりで…ようだが）に休刊を余儀なく…つつも、卑屈に「金」に媚びる…なく、自らの〈存在〉を存在…しめている。われわれもまた…らが宣言したことをそのまま…自らに関係する全ての"人…宣言しなければならない。…新」の存在は〈私〉の存在を…しえはしない▼「経営」（財…問題が前提ではないと語り…も、いつの間にか逆転して…危険性は「革命のために」と…つつ、いつの間にかスターリ…トに転ずる危険度に照応す…「学新運動」が「学新運動」…て存在しえない今日の情況は…大新がいみじくも「明大新聞…闘争」をMUP闘争と呼んだ…ことに顕著に語られるだろう…解を恐れずに言うならば、明…闘の展望を切り拓くものはM…闘争そのものである。▼当局…「伝統と栄光」からわれわれを切…捨てたことと同じく、われわれ…また「伝統と栄光」に閉じ込め…い込もうとするモノからも決別…なければならない。拠るべき所…なく、拠るべくナニモノもなく…解体〉し、〈解体〉し尽さぬか…り、われわれの明日はないの

会告
編集員募集

〈あなた〉が〈あなた〉でありつづけ
〈ぼく〉が〈ぼく〉でありつづける
〈ぼくら〉ということのできぬ
〈あなた〉へ
〈　〉でありつづけることによって
〈連帯〉していこうとする
〈あなた〉へのアプローチ

明治大学新聞学会
本校本局　旧学館一階
TEL（二九三）（五八一一）内線409・412
和泉支局　一号館二階

三共出版の好評化学書／目録呈
有機化合物の構造決定
〈I・R・UV・NMRの解説と演習〉
大学教養 有機化学演習
有機生物化学
101 東京・神田神保町3－2　振替／東京1065

一斎藤の不朽の名著を再刊行！一
英文法研究シリーズ
斎藤秀三郎原著・松田福松訳編
冠詞用法詳解 ¥320
名詞用法詳解 ¥450
代名詞用法詳解 ¥590
形容詞用法詳解 ¥450
動詞構文詳解 ¥450
叙法・時制詳解 ¥480
助動詞用法詳解 ¥480
準動詞用法詳解 ¥450
副詞・接続詞詳解 ¥690
前置詞用法詳解 ¥480
＊好評発売中！
基礎ドイツ語講話〈入門篇〉¥350
基礎ドイツ語講話〈初級篇〉¥350
新ロシア語文典 ¥1500
現代ロシア語読本 ¥1200
東京麹町局私書箱26号　吾妻書房　振替東京10342

抵抗と愛の讃歌
私は弾劾する
獄中からの手紙・燕の書
東京・神田　東邦出版社　神保町2－28

現代の眼
新年特別号・200円・発売中
特集 昭和思想
東京・京橋3-11　現代評論社　振替東京4419

月刊総合誌 流動 新年特別号
特集 日本社会の緑色革命
日本人研究
日本人研究　板坂康弘

生きた英語の総合雑誌
時事英語研究
1月号 二五〇円
《特集》ブラック・アメリカンズ
《英文》ドルかSDRか？／中国の国連加盟について／そのほか2編
《映画》八点鐘が鳴るとき
文学・語学・文化情報
英語研究
1月号 二三〇円
特集・日英語表現を比較する
研究社